

学部・研究科等の教育に関する現況分析結果

学部・研究科等の教育に関する現況分析結果（概要）	1
1. 教育学部	3
2. 教育学研究科	5
3. 教職リーダー専攻	7
4. 社会情報学部	9
5. 社会情報学研究科	11
6. 医学部	13
7. 医学系研究科	16
8. 保健学研究科	18
9. 理工学部	20
10. 理工学府	23

注) 現況分析結果の「優れた点」及び「特色ある点」の記載は、必要最小限の書式等の統一を除き、法人から提出された現況調査表の記載を抽出したものです。

学部・研究科等の教育に関する現況分析結果（概要）

学部・研究科等	教育活動の状況		教育成果の状況	
	【2】	相応の質にある	【2】	相応の質にある
教育学部	【2】	相応の質にある	【2】	相応の質にある
教育学研究科	【2】	相応の質にある	【2】	相応の質にある
教職リーダー専攻	【2】	相応の質にある	【2】	相応の質にある
社会情報学部	【2】	相応の質にある	【2】	相応の質にある
社会情報学研究科	【2】	相応の質にある	【2】	相応の質にある
医学部	【2】	相応の質にある	【2】	相応の質にある
医学系研究科	【2】	相応の質にある	【2】	相応の質にある
保健学研究科	【2】	相応の質にある	【2】	相応の質にある
理工学部	【3】	高い質にある	【2】	相応の質にある
理工学府	【2】	相応の質にある	【2】	相応の質にある

1. 教育学部

(分析項目Ⅰ 教育活動の状況 …………… 4)

(分析項目Ⅱ 教育成果の状況 …………… 4)

分析項目Ⅰ 教育活動の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

教育活動の基本的な質を実現している。

〔特色ある点〕

- 全国的な手話通訳者不足に対応するとともに特別支援教育における実践力を高めるために、平成 29 年度から、日本財団の助成を受けた群馬県との共同事業「学術手話通訳に対応した専門支援者の養成」事業を行っており、1 年次から 3 年次までの学修により手話通訳者全国统一試験受験資格が得られる。受講学生は毎年 20 名程度である。令和元年度からは学術手話通訳者の養成に加えてろう重複障害者の支援者養成も行うカリキュラムを開始した。

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

現況分析単位の目的に沿った基本的な教育成果が認められる。

2. 教育学研究科

(分析項目Ⅰ 教育活動の状況 …………… 6)

(分析項目Ⅱ 教育成果の状況 …………… 6)

分析項目Ⅰ 教育活動の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

教育活動の基本的な質を実現している。

〔特色ある点〕

- 外国籍児童・生徒が多いという群馬県の状況を鑑み、専門職学位課程では、多文化共生教育に関する科目を2コースの共通科目として設定している。
- 専門職学位課程では、理論と実践の両面を踏まえた学習を行うため、基本的にはほぼすべての科目において、研究者教員と実務家教員の協同によるティーム・ティーチング、少人数教育、対話・討論型の授業を取り入れている。
- 専門職学位課程では、修了時の公開課題研究報告会には、県教育委員会関係者、保護者関係者（PTA 連合会会長など）を評価委員として招聘し、教職リーダー専攻のすべてのスタッフと共に修了生全員の評価に加わってもらっている。
- 修士課程では、毎年11月最終水曜に院生と教職員の懇談会を開催して、カリキュラム・授業等に対する院生の意見・要望を聞き、授業改善に役立てている。

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

現況分析単位の目的に沿った基本的な教育成果が認められる。

〔特色ある点〕

- 平成28～平成30年度の研究科修了生に対して卒業時に行ったアンケートでは、教育学研究科に対する総合的な評価はいずれの年度でも肯定的な評価が90%という高い水準であった。

3. 教職リーダー専攻

(分析項目Ⅰ 教育活動の状況 …………… 8)

(分析項目Ⅱ 教育成果の状況 …………… 8)

分析項目Ⅰ 教育活動の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

教育活動の基本的な質を実現している。

〔特色ある点〕

- 外国籍児童・生徒が多いという群馬県の状況を鑑み、多文化共生教育に関する科目を2コースの共通科目として設定している。
- 基本的にはほぼすべての科目において、理論と実践の両面を踏まえた学習を行うため、実務家教員と研究者教員の協同によるチーム・ティーチング、少人数教育、対話・討論型の授業を取り入れている。
- 院生からの要望を受ける学生支援部会を設け、指導教員以外の教員にも相談できる体制を作っている。また、第3期中期目標期間中は毎年11月下旬～12月上旬に教員と院生との懇談会を実施している。
- 客観性の高い評価を行うため、修了時に、公開での課題研究報告会を必ず実施し、その際、県教育委員会関係者、保護者関係者（PTA 連合会会長など）を評価委員として招聘し、教職リーダー専攻のすべてのスタッフと共に修了生全員の評価を行い、それを加算して成績優秀者を表彰している。
- 教職大学院における研究成果を学校現場に広く知らしめるために、平成28年度から令和元年度の群馬大学と群馬県教育委員会との連携に係る協議会が主催するシンポジウムにおいて、教職リーダー専攻修了生が登壇者となった。

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

現況分析単位の目的に沿った基本的な教育成果が認められる。

4. 社会情報学部

(分析項目Ⅰ 教育活動の状況 10)

(分析項目Ⅱ 教育成果の状況 10)

分析項目Ⅰ 教育活動の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

教育活動の基本的な質を実現している。

〔特色ある点〕

- 意欲の高い学生の能力を引き出す試みとして、グローバルフロンティアリーダー（GFL）の育成コースとデータ解析プログラムの2つの選抜型特別コースを用意した。
- 優秀な学生の確保及び学生の修学意欲向上のため、授業料免除（卓越）枠を拡充している。令和元年度は、推薦入試におけるGFL特別枠、データ解析枠を導入し、合格者は「卓越学生に対する授業料免除制度」の優先的適用の対象者とした。

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

現況分析単位の目的に沿った基本的な教育成果が認められる。

5. 社会情報学研究科

(分析項目Ⅰ 教育活動の状況 12)

(分析項目Ⅱ 教育成果の状況 12)

分析項目Ⅰ 教育活動の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

教育活動の基本的な質を実現している。

〔特色ある点〕

- 平成 28 年度から文理横断的数理・データサイエンス教育研究機能強化を目的に情報メディア論、機械学習、数理モデリング、社会シミュレーション、計算社会科学を専門にする教員を採用し、「メディア社会構想コース」と「社会情報システムデザインコース」の2つの新たなコースを設置した。

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

現況分析単位の目的に沿った基本的な教育成果が認められる。

6. 医学部

(分析項目Ⅰ 教育活動の状況 14)

(分析項目Ⅱ 教育成果の状況 15)

分析項目Ⅰ 教育活動の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

教育活動の基本的な質を実現している。

〔特色ある点〕

- 保健学科では、「群馬一丸で育てる地域完結型看護リーダー」事業を実施し、在宅ケアマインドと地域生活者としてのスキルの育成を強化した教育プログラムを取り入れた。当該事業は平成26年度から平成30年度まで実施し、現在は履修証明プログラムとして継続しており、地域保健医療の現場で就業中の看護職が地域完結型看護を学習する機会を設けている。
- 「医学科基礎系教員向け医療安全FD」を実施し、現況と課題を提示することで、低学年での学生実習における医療安全について見直す機会とした。
- 医学科では、毎年、パジャジャラン大学（インドネシア）との交換留学（受入4名、派遣4名）を行い、また、英国大学医学部における臨床実習に学生が参加している（毎年1名）。保健学科では、毎年、モンゴルやタイの医療系大学・病院へ在学学生を派遣し、派遣に係る事前学習・事後学習及び報告会を評価して単位認定をしている。
- 医学科では、半期ごとに開催される総合認定会議において、当該学期の科目担当者だけでなく次学期の科目担当者にも総合認定会議に同席するよう体制を変更して成績だけでなく学生個人の問題についても情報共有して継続的な学生指導につなげている。
- 看護学専攻では、超高齢社会のニーズである地域での暮らしを見据えた看護の実現に対応するため、在宅ケアマインドと地域生活者としてのスキルの育成を強化した教育プログラム「群馬一丸で育てる地域完結型看護リーダー」事業による履修証明プログラムを継続することにより、社会人等の多様なニーズに応じた学習機会を提供している。

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

現況分析単位の目的に沿った基本的な教育成果が認められる。

〔特色ある点〕

- 2年次必修科目「チーム医療実習」の実習前学習に認知症サポーター研修を取り入れ、当該科目履修学生は「認知症サポーター」の資格を取得している。

7. 医学系研究科

(分析項目Ⅰ 教育活動の状況 …………… 17)

(分析項目Ⅱ 教育成果の状況 …………… 17)

分析項目Ⅰ 教育活動の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

教育活動の基本的な質を実現している。

〔特色ある点〕

- 放射線医学における物理的および技術的課題の解決に先導的役割を担う医学物理士を養成するため、修士課程に「医学物理コース」を設置した。本コースは医学物理士認定機構から教育コースの認定を受けている。平成 28 年度に 3 名、平成 29 年度に 2 名、令和元年度に 2 名が本コースを選択している。
- アジア核医学指導者養成コース（医科学専攻）
平成 24 年度に文部科学省「国費外国人留学生の優先配置を行う特別プログラム」に採択され、本コースを設置し、アジア諸国からの医師・放射線技師・医学研究者を対象とした放射線医学、特に核医学の専門家・指導者を養成している。

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

現況分析単位の目的に沿った基本的な教育成果が認められる。

8. 保健学研究科

(分析項目Ⅰ 教育活動の状況 19)

(分析項目Ⅱ 教育成果の状況 19)

分析項目Ⅰ 教育活動の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

教育活動の基本的な質を実現している。

〔特色ある点〕

- 「臨床研究コーディネーター（CRC）管理者養成コース」では、質の高い臨床研究を実践・指導できる人材である「臨床研究プロフェッショナル」の育成を目的として、臨床研究の企画・計画で必要となる知識や研究を遂行する上で基盤となる技術を修得させる講義や演習、臨床研究中核病院などの医療機関での実習を行っている。平成 28 年度から平成 30 年度末までの間に合計 3 名が修了し、令和元年度はさらに 7 名が修了予定である。
- 地域完結型看護に関する内容を強化したカリキュラムを博士前期課程に位置付けて、平成 28 年度から「地域完結型看護リーダー養成コース」を開設した。本コースは、在宅看護の考え方・方法や多職種連携の基本を学ぶ<基礎編>、在宅ケア関連の行政施策、看一看護連携・多職種連携の実際を学ぶ<応用編>、地域完結型医療・ケアの考え方に立脚した看護実践と実習指導を目指した演習・実習からなる<実践編>で構成しており、<実践編>の「地域完結型看護リーダー実習」では、県内の訪問看護ステーション、保健所・保健センター、老人保健施設、群馬大学医学部附属病院・患者支援センターにて実習を行っている。コース受講者の状況は、平成 28 年度 5 名、平成 29 年度 3 名、平成 30 年度 3 名となっている（群馬一丸で育てる地域完結型看護リーダー事業報告書（平成 26-30 年度））。

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

現況分析単位の目的に沿った基本的な教育成果が認められる。

9. 理工学部

(分析項目Ⅰ 教育活動の状況 21)

(分析項目Ⅱ 教育成果の状況 22)

分析項目 I 教育活動の状況**〔判定〕 高い質にある****〔判断理由〕**

教育活動の基本的な質を実現している。

理工学分野において新しい領域を開拓する創造的プロジェクトの国際的リーダーを育成するために、グローバルフロンティアリーダー（GFL）育成プログラムを実施し、同プログラムに参加した複数の学生が学会等で受賞している。

〔優れた点〕

- 理工学分野において新しい領域を開拓する創造的プロジェクトの国際的リーダーを育成するために、学習意欲の高い学生を選抜し、英語ゼミや海外研修、リーダーシップ養成のための合宿や講演会、早期の研究室配属などの体系的な教育を行うグローバルフロンティアリーダー（GFL）育成プログラムを実施している（プログラム参加人数：平成 28 年 16 名、平成 29 年 21 名、平成 30 年 15 名、令和元年 18 名）。このプログラムに参加した学生は、第 13 回日本分子イメージング学会総会・学術集会（平成 30 年度）にて優秀発表賞を受賞しているほか、プログラム修了生である大学院生では多くの学生が学会で受賞をしている（平成 28 年 3 名、平成 29 年 3 名、平成 30 年 8 名（延べ人数））。また、マサチューセッツ工科大学（米国）で令和元年 10 月に開催された合成生物学の大会 iGEM にこのプログラムの学生が参加し、銅メダルを獲得した。

〔特色ある点〕

- 英語教育において、効果的な学習法として各自のレベルや関心にあわせた本（英語）を読む「多読プロジェクト」を、読解力、語彙力、読む速度の向上を目的として平成 24 年度から導入しており、前後期ともに 1 週間に 10,000 語読むことを課している。
- 低学年からキャリア計画への意識付けを行うガイダンスを開催し、職業観・勤労観の育成や専門教育の意味づけ、学習意欲の向上を図っている。就業力育成科目としてキャリア計画、キャリア設計、キャリア展開、インターンシップ I、インターンシップ II を開講している。
- ハノイ工科大学（ベトナム）から 3 年次編入生を受け入れるツイニングプログラムも平成 19 年度から継続しており、平成 28 年度～令和元年度には計 10 名が入学、教育の国際的な多様性を確保している。

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

現況分析単位の目的に沿った基本的な教育成果が認められる。

〔特色ある点〕

- 「早期卒業制度」及び「大学院への飛び入学制度」を用意し、平成 29 年度に早期卒業 3 名、飛び入学 1 名、平成 30 年度に早期卒業 2 名が利用している。

10. 理工学府

(分析項目Ⅰ 教育活動の状況 24)

(分析項目Ⅱ 教育成果の状況 25)

分析項目Ⅰ 教育活動の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

教育活動の基本的な質を実現している。

〔特色ある点〕

- リーディング大学院「重粒子線医理工学グローバルリーダー養成プログラム（重粒子線医理工連携コース）」のための医理工連携科目群を令和元年度から開設した。
- 博士後期課程において履修を修了要件として義務付けている国際インターンシップについて、海外の学会等での発表、交流を促進、支援するため群馬大学工業会、群馬大学科学技術振興会の協力のもとに奨学支援制度を設けている。令和元年度は、工業会については2名、科学技術振興会については5名が制度を利用し、学生の渡航先に応じて、1名当たり8～15万円が支給された。
- 中国科学院過程工程研究所（中国）との国際連携講座に入学した中国人留学生に対して、両機関の教員が連携して英語での講義、研究指導、日本人学生との交流を行う体制を構築し、令和元年10月には5名の学生を受け入れた。
- 近隣県にある「中国や東南アジアにも拠点をもつ製造業の企業」と連携・協働して海外インターンシップを実施し、平成29年度は博士前期課程が2名、平成30年度は博士前期課程4名、博士後期課程1名が参加している。
- 群馬県内の経済の持続的発展のために創設された「成長産業分野活性化事業」の一環として、及び履修証明プログラムとして群馬大学「高度人材養成のための社会人学び直し大学院プログラム」「グリーン・ヘルスケアエレクトロニクスを支えるエグゼクティブエンジニア養成プログラム」を実施し、令和元年度は延べ107名（実人数は77名）の受講があった。また、太田キャンパスにおいて「材料力学」外11科目のリカレント教育を実施し、延べ200名が受講した。

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

現況分析単位の目的に沿った基本的な教育成果が認められる。

〔特色ある点〕

- 毎年8月に高崎市において、体験的学習を通じて、五感で学問の面白さ、奥深さを肌で実感してもらい、将来の日本、世界を担う人材の若い芽をはぐくむことを目的として、小・中学生を主な対象とした「群馬ちびっこ大学」を開催している。1日あたり約1,500名の来場があり、4日間開催している。このイベントに、大学院理工学府から毎年60名程度の大学院生が運営スタッフとして参加し、イベント運営の補助や来場者への実験展示テーマ内容の説明、参加者の実験作業のサポート等を行っている。来場者からは、「子どもたちに対し、親切にわかりやすく教えてもらった」、「科学の楽しさを知った、理科が好きになった、将来は理工学部に入りたい」という声が聞かれるなど、好評を得ている。また、このイベントに参加した小・中学生が、長じて群馬大学に入学するなど、科学への関心を喚起することに成功している。